

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071201390		
法人名	社会福祉法人 皆楽園		
事業所名	グループホームなごみ ①ユニット		
所在地	和歌山県岩出市水栖644-1		
自己評価作成日	平成30年1月12日	評価結果市町村受理日	平成30年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3071201390-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの理念である“誰もが利用したいと思えるグループホーム”“共に笑顔で暮らす”を大切に、利用者様が安心して過ごせるグループホームを目指しています。明るくて清潔な場所や美味しい食事等、居心地が良く、楽しみのある日常生活を送って頂けるような支援を心掛けています。高齢や疾患による状態・体調変化に早期発見し、ご家族との連携を取り、早期対応に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは利用者の思いに寄り添い持っている力を活かしながら笑顔で過ごせるよう、自己決定できるよう関わり、塗り絵などの趣味活動を楽しんだり日々の食事作りにもできる事に携わってもらう他、入浴は隔日に入居することを基本に本人が入りたい時間に対応できるように支援するなど、その人らしい暮らしに向け取り組んでいます。職員間の関係性が良くフロア毎のミーティングやケース会議、全体で行う職員会議を毎月行い、職員は多くの意見や提案を出し合い業務改善やサービスの向上に活かしています。また、隣接する地域コミュニティスペースを地域の方に開放し、二胡の演奏や小学生の落語などの様々な活動に利用してもらうことでホームを知ってもらうと共に利用者と共に地域交流が徐々に広がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に理念を唱和し、スタッフ全員が理念を共有しケアに繋げている。	法人理念の基職員間で話し合い独自の理念を作成し、毎日唱和し理念が浸透するように取り組んでいます。「誰もが利用したいと思えるグループホームを目指します」と掲げた理念にそってケース会議の中で利用者の思いに寄り添ったケアとなっているかを振り返り実践に繋げています。新任職員には特に理念を丁寧に伝えています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の溝掃除に参加したり、夏祭りや秋祭りに声をかけて頂き、又、中学生の体験学習の受入を行い地域の方々との交流との交流に努めている。	自治会に加入し地域の清掃に職員が参加したり、隣接する地域コミュニティスペースを地域の方に開放し様々な活動に利用してもらうことでホームを知ってもらい、利用者との交流に繋がっています。ホームの行事の際のボランティアや中学生の体験学習を受け入れ、地域の夏祭りに参加したり秋祭りには子ども神輿を見に行き交流しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、グループホーム内を見学して頂いたり認知症の方への支援について話し合いや情報交換することで理解を深めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ユニットごとの活動報告でご利用者へのサービスの状況や職員の研修報告等を行い、参加者の方から意見や助言を受け、サービスの向上に繋げるように話しあっている。	会議は民生委員や自治会区長、市職員等の参加を得て隔月に開催しています。各ユニットごとに利用者の状況や活動、地域との関わり、研修、事故等の報告を行い、意見交換を行っています。ホームのサービスについて質問をもらい答えたり、地域の行事の情報を得ています。家族へは毎月の便りに会議の日程を案内していますが、参加には至っていない状況です。	家族の参加に向けテーマを決めたり、会議について知ってもらい参加しやすい雰囲気作り等の工夫をされてはいかがでしょうか。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、毎回出席して頂き事業所の実情やサービスの取り組みを理解して頂いている。又、機会ある毎に相談させて頂いている。	市職員の運営推進会議への出席が得られており、ホームの状況を理解してもらい、会議後に相談することもあります。また急なことには電話等で相談しアドバイスをもらっています。また研修案内があり、できる限り参加するようにしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加し、ミーティング時に報告を行い、事業所内研修で身体拘束をしないケアについて学び、話し合い取り組んでいる。	身体拘束についての外部研修を受けた職員がホームで伝達研修を行ったり、ホーム内でも研修を行い職員が学ぶ機会を多く作っています。言葉による行動の制止が無いよう配慮し、不適切な対応があれば都度注意しています。玄関等の鍵は掛けず職員は見守り外に行きたい様子があれば付き添い一緒に出かけるようにしています。センサーを使用する際には家族と話し合い了承を得て必要性の検討を定期的に行っています。		

グループホームなごみ①ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、ミーティング時に報告を行い、事業所内研修で高齢者虐待防止について学び、話し合い取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている方はいないが、以前おられ制度についても理解している。又研修にも参加し、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書について契約時に十分説明を行い理解を得ている。又、変更事項がある時には必ず同意書を交し納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の思いやご家族の要望を受け止めケアに繋げ、事業所に対応できる事は反映させるように努めている。	利用者からは日々の会話から意見や要望を聞くように関わっています。家族からは面会や行事、家族会での来訪時に利用者の様子を伝えると共に意見を聞いており、個別のケアについての要望を多く受けています。得られた意見から下肢筋力低下やむくみ対策について介護計画に反映すると共に全体での体操に取り組むなど、意見をサービスの向上に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング以外にも職員の意見を聞く機会を作り、又日頃からコミュニケーションを図るようにしている。	フロア毎のミーティングやケース会議、全体で行う職員会議を毎月行い、職員の意見や提案を聞いています。夜勤者の業務内容や居室の整理整頓について等の意見や提案が出され、話し合い改善に繋がっています。法人幹部との個人面談が年に2回あり、個別で意見や思いを聞く機会があり、また日々管理者は職員とコミュニケーションを図り様々な意見を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、職員が目標を持って働ける環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部や法人内の研修に職員全員が参加出来る機会を作るように努めている。研修後はミーティング時に研修内容を報告し、職員に伝達している。		

グループホームなごみ①ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム4事業所の交流会を行い、ご利用者、職員共に交流を深めている。又、2ヶ月毎にリーダー会議を開催し、活動報告や問題点等の検討、意見交換を行い、お互いのケアを見直す機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望を聴く機会を作りご本人の思いや状態を把握し、安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に来て頂き、ご家族の思いを十分理解し、不安に思っている事や要望等話し合う時間を持ち、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況を聞き、ご本人の状態に合わせ、又、ご家族のニーズを受け止めサービスを提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の得意な事や出来る事を探り家事等に参加して頂くなどし、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と家族の関係性を大切にし、自由に外出したり面会して頂く事でご利用者を共に支援する関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医への受診や馴染みの場所へ出かける等、関係が途切れないよう支援に努めている。	以前近隣に住んでいた方や孫などの親戚、友人等の来訪があり、居室でゆっくり過ごしてもらえるよう椅子を準備したりお茶を出し、時には職員が間に入ったり様子を伝えコミュニケーションが取れるよう支援しています。また一緒に外出する方もいます。家族と馴染みの美容院に行ったり、自宅や墓参りに定期的に出かける方がおり、スムーズに外出できるように支援しています。通院介助時に馴染みの場所を通ったり、年賀状のやり取りも支援し馴染みの関係の継続に向け取り組んでいます。	

グループホームなごみ①ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を把握し、良い関係が継続出来るように時には職員が間に入り声をかけるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた後も面会に行く等、関係を断ち切らないように心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から生活歴や思いや希望をくみ取るように心掛けている。ご本人の好きなことや得意なことを把握し楽しめる環境を作るよう努めている。	入居時に本人や家族と面談を行ったり以前利用していた事業所から情報を得て、思いや意向の把握に努めています。入居時家族に生活歴や習慣、暮らし方の希望等をアセスメントシートに記入してもらい、入居後は職員が関わりの中で得た情報を加え情報を共有し、思いの把握が困難な場合は家族に聞いたりケース会議で本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式に記入して頂きご本人の情報や生活歴の把握に努め、ご家族からも情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「一日の流れ」から一人一人の状況や状態を把握し、出来ることや現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケース会議で一人ひとりの課題について全員で検討し、介護計画に反映させご本人・ご家族の思いに添った計画を作成している。	本人や家族の意向の基アセスメントを行い、介護計画を作成しています。毎月ケース会議で利用者の課題についてや状況の変化について検討し、必要に応じて随時の計画の見直しに繋がっています。変化のない時も6か月毎に見直し、見直しに当たっては受診時の情報を加味したり、見直し案を家族に報告し意向を確認し同意を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は生活記録に記録している。申し送りや気付きなど職員で共有し、介護計画やケアの実践に活かしている。		

グループホームなごみ①ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じ、日々の過ごし方や通院、買い物、散髪等の支援を相談し行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中学生の職場体験受入や地域の夏祭り等に参加し、地域交流に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診や往診で入居前と変わらない医療を受けられている。専門医受診が必要な場合はご家族に相談し、診て頂いている。ご家族や職員共、受診時の情報共有をしている。	入居前からのかかりつけ医を継続することを基本とし、個々に合わせて受診したり往診を受けています。医療機関への受診は家族と行くことを基本とし口頭や書面で情報交換を行い、家族の行けない時や緊急時には職員が支援しています。利用者の体調変化時に職員で判断できない時には法人内の看護師に相談しアドバイスを受けることもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師と連携をとり、ご利用者の状態が変化した時等、情報や気づきを伝え相談しながら健康管理の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、ご家族と相談しながら病院関係者に、日常の様子など情報提供している。入院中は頻繁に見舞い、状態や経過についてご家族や病院関係者に様子伺いし、早期退院出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の際には早い段階からご家族や医師と相談し、身体的機能低下に伴い事業所で出来るケアを具体的に説明し、方針を共有し支援に取り組んでいる。	入居時に終末期の支援はホームではできないことを伝えており、できる限りの支援を行っていますが、入浴が困難になったり食事が摂れなくなってきた時に再度説明しています。かかりつけ医の意見を聞き、家族と話し合い法人内の他施設への転居も含めて検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修会や講習会に参加し、又、ホーム内研修を行い、急変や事故発生時に対応出来るよう努めている。		

グループホームなごみ①ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団の立ち会い協力を得て避難訓練や消火器の使い方、避難経路の確認を行い、ホーム内で災害ビデオ研修も行っている。緊急時の連絡体制により応援要請し、早期対応できるように取り組んでいる。	年に2回行う消防訓練の内1回は地域の消防団の参加を得て通報や夜間を想定した避難誘導の訓練を実施しアドバイスを受けています。1回はビデオ研修や消火器の使い方等の訓練を行い、法人内でホームの分の備蓄もしています。今後訓練を近隣に知らせたり地域の訓練にも参加したいと考えています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損なわないようにさりげない声かけや介助を心掛けている。	プライバシー保護や接遇マナーについては法人内研修を受講した職員の伝達やホーム内研修で職員に周知しています。個々を尊重し丁寧な対応を心がけ、苗字で呼ぶことや本人にわかりやすい言葉遣いに配慮しています。トイレに内カーテンを付けたり、トイレや入浴の支援時には声の大きさ等周囲にわからないように気を配っています。不適切な対応があれば都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決定するのではなく、ご利用者が選択出来る場面を設け、意思表示の難しい方には表情や様子から読み取るように努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の気持ちに寄り添い、生活ペースを大切にし個々の個性を大切にした支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の好みに合った衣服と一緒に選んだりしている。 日々の習慣に合わせた身だしなみを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	片付け等は利用者と職員が一緒に出来る範囲で行っている。誕生日等では好みの物を用意し楽しんで頂いている。	食材をスーパーに注文し配達してもらい、ユニット毎に冷蔵庫内の食材を見て利用者の好みを聞いて献立を決めています。利用者は下拵えや盛り付け、下膳、食器洗いなどのできる事に携わってもらい食事を作っています。職員も同じものを同じ食卓に着き食べ、ホットケーキやおはぎなどの手作りおやつ作りを共に楽しんでいます。おせち料理等の季節ごとの食事の他、バイキングやバーベキュー、弁当持参でドライブに出掛けたり家族会でおやつ作りを行うこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個別で記録している。嚥下状態が低下されているご利用者には刻み食も対応している。栄養バランスは法人内の栄養士から定期的にアドバイスを受けている。		

グループホームなごみ①ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個々の状態に応じて口腔ケアの声掛け、状態に合わせて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンやサイン等を把握し定期的にトイレ誘導に声掛けしている。	日々の記録で利用者の排泄状況を把握し、個々のリズムや仕草やサインなどを見逃さないように配慮し、トイレに行けるように支援しています。個々に合わせ様々なパッドなどの排泄用品を検討したり、申し送り時に支援方法を話し合っています。支援を継続する中で失敗が減った方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維を取り入れ、ヨーグルトや牛乳を摂取して頂いている。定期的に主治医に相談し緩下剤を服用して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調をチェックし、バイタルを確認して希望により入浴して頂く。拒否される場合は時間を空け、再度声を掛ける等ご本人の気持ちを大切にしています。	隔日に入浴することを基本に本人が入りたい時間に対応できるように支援しています。現在は希望はありませんが、毎日や19時半までの夕食後の入浴も可能です。また入浴しない日には清拭を行い清潔を保持し、好みのシャンプーを持参したり入浴剤を使用し入浴を楽しんでもらっています。拒否する方も言葉のかけ方や時間を変える等で無理なく入っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で好きなテレビを見られたり、体調をみながら休まれたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を職員全員が服薬管理票で、薬の確認を行い、状態が変わった時には主治医を受診し、薬の変更があれば申し送りノートや朝礼で伝達を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたみ、食事の取り分けなど皆で協力しながら楽しんで行えるよう支援している。		

グループホームなごみ①ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望にそえるようご家族とも協力し、外食に出かけたりしている。	気候や天気の良い時は散歩に出かけたり、庭や中庭に出ておやつや昼食を食べたり外気浴をし、時には買い物やドライブに行っています。季節ごとに初詣や花見、紅葉狩りのドライブの外出や2～3人で植物園に出かけています。定期的に法人内のグループホーム交流会に行き楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は預からず買い物分は立て替えして月のご利用料金と一緒に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族、ご友人に電話をかけられたり、ご家族からの電話も取りついたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度を調整している。フロアーや玄関に壁飾りや貼り絵など季節に合わせ飾り付けをしている。	玄関やフロアには雛飾りや生花、利用者の塗り絵等の作品が飾られ、季節を感じられるように配慮しています。利用者が過ごしやすいようにテーブルを配置したり、複数のソファを配置し過ごす場所を選んでもらい、強い日差しはカーテン等で調整しています。毎日換気や掃除を行い清潔保持に努め、加湿器や空気清浄機の設置、利用者の体感も聞きながら室温調整にも気を配り、快適に過ごせる空間作りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の気の合う方を考慮しテーブルやソファでくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や置物を持ち込んで頂き、安心して過ごせるようにつとめている。	各居室にトイレや洗面台、クローゼットがあり、入居時に馴染みの物を持参してもらえるように説明しています。利用者は椅子や棚、テレビ、大切にしている仏壇などの持参したものを家族と相談し過ごしやすいよう配置しています。以前に作成した手芸の人形や編み物の作品、家族の写真を飾ったり、好きな猫や犬のぬいぐるみなどを傍に置き、その人らしく過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを必要な場所に設置し段差をなくし安全に過ごして頂けるようにしている。		